様式 C-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成　２２　年　６　月１５日現在

研究種目：基盤研究（c）
研究期間：2007～2009
課題番号： 19520531
研究課題名（和文）大学ライティングセンターの構築と運営に関する研究-EFL の視点から

研究課題名（英文）Establishing and Managing University Writing Centers-From viewpoints of EFL

研究代表者
S･R Johnston　（S・R ジョンストン）
大阪女学院大学　教養学部　教授
研究者番号：90388710

研究成果の概要（和文）：本研究の目的は、これまでほとんど学術的な研究が行われていなかった日本の大学ライティングセンターの役割と構築について分析することであった。我々はまず、アメリカ、アジア及び日本のライティングセンターを視察し、ライティングセンターの設立、運営についての調査を行った。次に、日本及びアジアの大学ライティングセンターのネットワークを設立し、相互の情報交換が行えるようにした。さらに、日本語あるいは英語により各学会などでライティングセンターに関する発表を行った。これらの研究の成果をもとに、ライティングセンターに関する手引き及びホームページを作成し、ライティングセンターの情報及び資料が共有できるシステムを設けた。

研究成果の概要（英文）：As part of the research we visited writing centers in the US, Asia, and Japan and conducted research on various themes to better understand students' experiences and needs when using a writing center, and developed a network of writing center administrators based in Japan and Asia. Throughout our research we disseminated our findings both through conference presentations and academic publications. Finally, we created a handbook and homepage that provides information on what a writing center is, gives guidelines on how to create and manage a writing center, and includes a list of helpful resources.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 平成 19 年度 | 2,300,000　円 | 690,000　円 | 2,990,000　円 |
| 平成 20 年度 | 500,000　円 | 150,000　円 | 650,000　円 |
| 平成 21 年度 | 900,000　円 | 270,000　円 | 1,170,000　円 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,700,000 円 | 1,110,000 円 | 4,810,000 円 |

研究分野：人文学
科研費の分科・細目：言語学・外国語教育
キーワード：英語、ライティング、ライティングセンター、EFL

１．研究開始当初の背景

ライティングセンターは、米国などで多くの大学に常時設置され、学生が教員やチューターから論文やレポート作成の指導やカウンセリングを随時受けられるシステムを提供している。ライティングセンターでは、論文等の推敲を行うだけでなく、論文作成にいたるライティング過程（プロセス）の指導を重視しているのが特徴である。しかし、日本においてライティングセンターは広く認識されているとは言い難い。近年、東京大学や早稲田大学など一部の大学でライティングセンターを設立し学生のライティングを支援する動きが出ているが、全国的に見た場合、日本の大学においてライティングセンターは黎明期であり、学術的な研究も不足している。さらに、米国におけるライティングセンターは英語を第二言語として学ぶ学生(English as a second language: ESL）を対象としているが、日本では英語を外国語として学ぶ学生(English as a foreign language: EFL）がほとんどである。従って、米国のライティングセンターに関する先行研究が「教科として英語を学び、教室外では英語と接触する機会がほとんどない」EFL 環境下での日本でそのまま応用することはできない。

これまでは、ライティングセンターを設立し学生の英語ライティング力の向上を図ろうにも、すべて手探りで始めなくてはならない状況であった。ライティングセンターの設立、運営は、施設を造り、人員を配置すればよいというような単純なものでは決してなく、大学、学生のニーズを分析し、また、正規の授業との連携を含めた全学的な構想のもと推し進めなければならない。本研究は日本のライティングセンターに関する先駆者的な役割として、これまでほとんど学術的な研究が行われていない日本の大学ライティングセンターの役割と構築について分析を行うことを目的とした。

## ２．研究の目的

本研究の目的は、大学でアカデミックな英語の習得を推進する際に、今後ますます需要が増大すると予想される日本の大学でのライティングセンターの役割と機能について先駆的な研究調査をおこなうことであった。これは米国をモデルとしたライティングセンターを単に形式のみをとりいれるのではなく、英語を外国語として学ぶ日本の大学生に適したライティングセンターの構築を発展させることを目的とした。これらの目標に向けて、本研究の 3 年間では、①EFL/ESL 環境下にある国内外の大学のライティングセンターの役割と機能の系統だった調査と分類を行うこと、②日本の大学に適したライティングセンターの構築と運営の分析を行うために、本研究代表者らが勤務する大阪女学院大学におけるライティングセンターを質的及び量的な研究手段を用いて多面的に検証し、学生及び教員からみた望ましいライティングセンターのあり方の分析を行うこと、③ 上記の①と②に基づき、ライティングセンターを将来設立しようとする日本の大学に、そのあるべき姿と長期的な運営に関する提言をする「モデル」づくりを行うことを目指した。

## ３．研究の方法

国内外の大学のライティングセンターの調査を行い、施設面と運営面の情報を、ESL（英語を第二外国語として話す環境、米国な

ど)、EFL （英語を外国語として学ぶ国、韓国などのアジア諸国)、及び日本でデータを収集した。調査大学の選択基準は、著名なライティングセンターを有するだけでなく、その大学の学生構成（国際留学生の割合など）や規模等が多様になるように選択した。また、日本の大学の実際のライティングセンターの発展的運営を確立するために、どのような手段を講じるべきか探るために、研究代表者と分担者の勤務校である大阪女学院大学のライティングセンターに関する縦断的調査を行った。調査に基づいて、ライティングセンターの改善を行い、その検証も実施した。

調査内容

- 大学ライティングセンターの施設面調査（建物、施設、設備、資料やハンドアウト）
- 大学ライティングセンターの運営面調査（組織、目標と運営、対象学生のアプローチ、チューターへの指導）
- 大学ライティングセンターに関する各種データ、文献の調査

## ４．研究成果

### （1）概要

当初は英語のライティングを念頭において調査を始めたが、ライティングセンターの存在が確認できたのは、わずか数大学のみであった。しかし、この３年の研究期間に調査を進め学会などで発表するに従い、新たにライティングセンターをスタートさせた大学が明らかになり、また設立を計画する大学からの問い合わせも増えた。さらに、対象言語が英語だけではなく、日本語のライティングセンターを運営している大学の存在も確認できた。

### （2）プロセス・ライティング

多くのライティングセンターに共通している点は、ライティングセンターが単に学生のライティングのチェックをする場ではなく、学生が自立した書き手になるために、あるいは書くという行為を通して考えを発展させることができるように手助けする場であるという考えをもとに運営されていることである。ライティングセンターを理解する上で大切な点は、ライティングをプロセスとしてとらえることであろう。プロセス・ライティングは、ライティングをブレインストーミング、構成、草稿、校正などのいくつもの段階に分け、それぞれにサポートやフィードバックが必要であると考える。これは、出来上がったライティングを最後に評価するだけのプロダクト・ライティングとはライティングに対するアプローチが全く異なる。

### （3）大学ライティングセンター例

ライティングセンターのあり方は、大学によって様々である。しかし、ライティングセンターで提供されているサポートの内容を大きく分けると (1) 書く前段階の準備 (2) 草稿作成 (3) スピーキングに関するもの (4) その他、に分類することができる。(1) はブレインストーミングや考えをまとめるためのサポート、(2) は構成や語彙などのサポート、(3) はプレゼンテーションやディスカッションのサポートも含まれる。また(4) の例としては就職活動や留学のための履歴

書やエッセイ、TOEFL のエッセイ作成などが挙げられる。

次に、日本における４つの大学ライティングセンターの例を紹介する。

早稲田大学では 2004 年に国際教養学部の設立とともにライティングセンターをスタートさせた。ライティングセンターで対象とするのは、英語論文だけではなく、留学への英文願書のエッセイなども含まれている。また、海外からの留学生に対しては日本語ライティングのガイダンスも実施している。当初は同学部の学生を対象にしていたが、全学的な需要の伸びとともに、2008 年 10 月からはその対象を全学に拡大した。早稲田大学でライティングセンターの責任者は専任教員であるが、実際の受講者にライティングのガイダンスを行うチューターは訓練を受けた博士課程前期や後期の大学院生、また海外から留学している学部生である。早稲田大学は最も充実したチューターへの訓練を行っている大学であり、週に一度チューターはミーティングを持ち、自分たちが行ったガイダンスを分析したり、ロールプレイを行い、互いに研鑽をつむ機会を提供している。

大阪女学院大学では 2004 年に 4 年制大学が新設されたのをきっかけに、それまで短大部で実施していた週 1 回のライティングクリニックを週 6 日開講のセンターへ発展させた。ライティングセンターは Self-Access & Study Support Center (SASSC)と呼ばれる学習支援センターの一環で、英語で行われているほとんどの大学の講義で出されるエッセイ、サマリー、リサーチペーパーに取り組む学生を支援することを目的としている。大阪女学院大学のライティングセンターの特徴は、チューターが英語母語話者の教員（専任及び非常勤）である点である。従って、すべてのガイダンスは英語で行われている。

上智大学のライティングセンターは、国際教養学部の学生を対象にしている。同大学の国際教養学部は、アメリカの大学と同様に入学試験時に TOEFL や SAT のスコアが必要とされ、学生の多くを外国人留学生や留学経験者、帰国子女などが占める。授業はほとんどが英語を用いて行われ、ライティングセンターの役割もアメリカの大学に極めてよく似た環境にある。また、対象は学生のみだけでなく、教員が学会発表のために提出するアブストラクトや論文投稿の際のガイダンスも行っている。

早稲田大学や大阪女学院大学、上智大学のライティングセンターが学部全体のミッションをサポートする目的で設立されことと比較すると研究色の強い東京大学では、駒場キャンパス教養学部のライティングプログラムのパイロットプログラムとして、ライティングセンターが設立された。その目的は、講義で出される英語論文作成の手助けが主なものである。

（４）調査実施大学等

以下が本研究で調査したライティングセンターである。

- 早稲田大学
- 上智大学
- 東京大学駒場キャンパス
- Hawaii Pacific University, Honolulu
- University of Hawaii, Honolulu
- Brigham Young University-Hawaii
- National University of Singapore, Singapore
- Ehwa University, Seoul
- Hanyang University, Seoul

- Seoul National University, Seoul
- Teachers College-Japan, Columbia University, Tokyo
- 神田外語学院

**設立したネットワーク**

- アジア・ライティングセンター・フォーラム http://groups.yahoo.com/group/asianwritingcenters/
- 日本ライティングセンター研究会 (Japan Writing Center Symposium)

＊詳細は Handbook on Starting and Running Writing Centers in Japan（大学ライティングセンターの構築と運営に関する手引書）を参照のこと。http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/research/kaken/johnston

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計４件）

- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. (2009). Writing Centers in Japan. *Osaka Jogakuin Diagaku Kiyou* 5: 181-192.
- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. (In Press). Writing Centers and Tutoring in Japan. *JALT2009 Proceedings.*
- Johnston, S., & Ochitani, M. (2008). Nuanced communication in a writing center in Japan, *The Writing Lab Newsletter,* 33 (4): 5-8.
- Johnston, S. (2009). Writing Centers in Japan and Asia. *The Language Teacher.* 33 (6): 32-33.

〔学会発表〕（計　９件）

- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. Second Language Writing Conference 2007, Nagoya, Miscommunication in Tutoring Sessions in a Writing Center in Japan , Sept. 15, 2007
- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. Second Language Writing Conference 2007, Users' Attitudes Toward Criterion, an Online Writing Evaluation Program, Sept. 15, 2007
- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. Second Language Writing Conference 2007, Asian Writing Center Organizational Meeting, Sept. 17, 2007
- 吉田弘子　大学英語教育学会(JACET)第 47 回全国大会（2008）EFL/ESL ライティングセンターの考察：　その多様性を探る　２００８年９月１２日　早稲田大学
- Johnston, S.,&Yoshida, H.　JALT 2008, Tokyo, Launching a Writing Center in Japan: A Case Study, Nov 3, 2008
- Johnston, S.,&Yoshida, H.　1st Japan Writing center colloquium, Tokyo, Research on Writing Centers in Japan, Feb. 17, 2009
- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S.　JACET 2009, Sapporo, Managing a Writing Center in Japan-A Case of Osaka Jogakuin College, Sept 4, 2009
- Johnston, S.,&Yoshida, H. JALT 2009, Shizuoka, Writing Centers

and Tutoring in Japan and Asia, Nov. 21, 2009

- Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. 2nd Japan Writing Center Symposium, Tokyo, Networking among Writing Centers, Feb. 17, 2010

〔図書〕（計１　件）
Johnston, S., Yoshida, H., & Cornwell, S. (2010) Handbook on Starting and Running Writing Centers in Japan（大学ライティングセンターの構築と運営に関する手引書）

〔産業財産権〕
○出願状況（計　件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

○取得状況（計◇件）

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕
- Research website http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/research/kaken/johnston
- アジア・ライティングセンター・フォーラム http://groups.yahoo.com/group/asianwritingcenters/

６。研究組織
(1)研究代表者
S･R Johnston　（S・R ジョンストン）
研究者番号：90388710

(2)研究分担者
（　　）

研究者番号：

(3)連携研究者
S・S Cornwell　（S・S コーンウエル）
研究者番号：00300260
吉田　弘子(ヨシダヒロコ)
研究者番号：50449857